

## 第22回市民参加懇談会コアメンバー会議

- 市民参加による政策検討会議 -

## 第 2 2 回 市民参加懇談会コアメンバー会議

- 市民参加による政策検討会議 -

### 議事録

1. 日 時：平成 1 7 年 8 月 3 日（水）1 0 : 0 2 ~ 1 2 : 5 6
2. 場 所：中央合同庁舎第 4 号館 4 階 共用第 4 特別会議室
3. 出 席 者：木元座長（原子力委員）、新井委員、井上委員、岡本委員、小川委員、  
小沢委員、蟹瀬委員、吉川委員、東嶋委員、中村委員、松田委員、  
吉岡委員  
  
（原子力委員会）近藤委員長、齋藤委員長代理、町委員、前田委員  
  
（内 閣 府）戸谷参事官、森本企画官、後藤企画官、赤池参事官補佐
4. 議 題：1 . 「市民参加懇談会 i n 福岡（仮称）」の開催について  
2 . 今後の開催について  
3 . その他
5. 配付資料  
資料市懇第 2 2 - 1 号 「市民参加懇談会 i n 福岡（仮称）」の開催計画（案）につ  
いて  
資料市懇第 2 2 - 2 号 今後の開催について  
資料市懇第 2 2 - 3 号 「浜岡原発を語るかい」（代表世話人東井様）からの返答内  
容  
資料市懇第 2 2 - 4 号 第 2 1 回市民参加懇談会コアメンバー会議議事録

午前10時02分開会

木元座長 時間になりましたので、始めさせていただきたいと思いますが、本当にお暑い中、お忙しい中お集まりいただきまして、まことにありがとうございました。

ちょうど私どもの原子力委員会が原子力政策大綱を作成している時期と重なりまして、市民参加懇談会のスケジュールの調整などご迷惑をおかけしておりますことをおわび申し上げます。

そういうような中で、今回の会議で開催させていただく事例が出てくるわけなんですけれども、実は事務局で担当の方の異動の時期に重なりまして、この市民参加懇談会も大分かわりました。

そこで、最初にきょうは前任の犬塚さんがいらしていますが、まず、新しく担当してくださる方、3人いらっしゃいますので、ご紹介いたします。

私のお隣、参事官補佐でいらっしゃいます赤池さん、犬塚さんのかわりに来ていただきました。後で一言ずつ言わせていただきます。

それから、後ろの席で、私の正面から左側に左藤さん、この左藤さんにはんべんのない左藤さんです。

それから、お隣にいらっしゃるのが門馬さんです。よろしく願いいたします。

竹越さんと島田さんのかわりにお見えになりました。

一言ずつ、赤池さんの方から。

赤池補佐 赤池でございます。

犬塚の後任として参事官補佐を拝命いたしました。私は文部科学省から来ておりまして、直前にはスウェーデンの大使館に3年間おりました。原子力行政の方をこれからいろいろ勉強していきたいと思っております。よろしく願いいたします。

木元座長 よろしく願いします。

では、左藤さん、どうぞ。

左藤 左藤でございます。竹越の後任として参りました。竹越に引き続きまして、市民参加懇談会の事務局をやらさせていただきますので、よろしく願いいたします。

門馬 門馬です。市民懇談会を有意義に成功させるために、一生懸命サポートしていきたいと思っております。よろしく願いします。

木元座長 よろしく願いいたします。

それでは、本題に入らせていただきます。

まず、議題1ですけれども、「市民参加懇談会 in 福岡」の開催ということで、皆様のお手元に資料その他配付されております。まず資料の配付を確認した上で、この1の議題に入らせていただきたいと思いますので、赤池さんの方から紹介していただきます。

赤池補佐 資料の確認をさせていただきます。

まず、1枚目は議事次第でございます。

2枚目でございます。座席表でございます。

3つ目、資料市懇第22-1号でございます。「市民参加懇談会 in 福岡（仮称）」開催計画（案）でございます。

資料市懇第22-2号でございますが、今後の開催について、「市民参加懇談会 in 静岡（仮称）」開催計画でございます。

そして、資料市懇第22-3号、「浜岡原発を語るかい」（代表世話人東井様）からの返答内容としまして、7月12日の返答内容、それから8月1日の返答内容のタイプしたものを配付しております。

それから、資料市懇第22-4号、市民参加懇談会コアメンバー会議、市民参加による政策検討会議議事録案でございます。

以上でございます。

木元座長 ありがとうございます。

それでは、事前に皆さん方の方にこの22-1号ですけれども、「市民参加懇談会 in 福岡」開催計画（案）というのですが、お手元に今日お配りしてあるのは、皆さまのご意見をもとに、新しく決めさせていただいたものです。これをもとに自由討議させていただきたいと思うんですが、まずテーマですけれども、「原子力と暮らし～知りたい情報は届いていますか～」、これは以前に決定させていただいたままになっています。

それから、決まらなかった開催日時ですが、皆様方のスケジュールの調整と一番多くご参加できる日と、それから会場の都合が延びに延びたりして二転三転しまして、この26日がやっとなりました。

それで、会場と開催時間を13時30分から17時ということを前提に、人数の多いバージョンと少ないバージョンとあります。まずパネリストを3人まず呼び出して、問題提起の上、ご意見をいただいていくという東京でやりました02年の11月の分と、それから敦賀でやりました03年の6月27日に開催したもの、それから青森でやりました、これも03年ですが、3月15日開催分と、このバージョンでいかせていただくことにいた

しております。第一部は3人のパネリストとし、候補案ということで提示させていただきました。

これはあくまでも問題提起をしていただく方なので、あるテーマについての賛成とか反対とかではなくて、ご自分が日ごろ原子力や情報について発言していらっしゃる方にお願ひさせていただこうと考えておりまして、事務方と協議の上、交渉いたしました。

大谷さんはスケジュールを26日に変更になったのでオーケーになりました。

それから、出光先生は出張からお帰りになった翌々日らしいのですが、オーケーです。

それから、井川さんはこの「原子力とくらし～知りたい情報は届いていますか～」ということにご発言したい内容を持っていらっしゃるということで、ぜひ出ていただきたいとお願ひしているところでございますけれども、この26日のお返事はまだいただいておりませんので、井川さんだけはまだ確定しておりません。ですけれども、ご賛同いただければこの3人でお願ひしたいと考えております。

このバージョンは、3人のパネリストがまず出ていただいて、司会の方の進行によって3人が「知りたい情報が届いていますか」というテーマでご自分の論を展開していただきます。その中にいろいろな問題を含んでいると思いますので、それをもとにして、今度は2部の方でまた司会の方のリードによりまして、コアメンバーは基本にご意見を聴くという立場で座っておりまして、会場から挙手の上適宜ご意見をいただくという形です。

時間の配分なんですけれども、そういう形になると、今仮に第1部は約100分、それから休憩を10分ぐらいとって、また後半約100分となっておりますけれども、できたら一部の方は短くして、少し時間を二部の方に持っていった方がいいのかなとも考えておりますのが、その辺のことも含めて、ご意見いただきたいと考えています。

今のところ、第2部の参加コアメンバーの予定ということで、お返事いただいたスケジュールをもとに、お名前を列記させていただきました。

それから、きょうは、委員長を初め5人の原子力委員がここに出席しておりますけれども、全員可能な限り参加いたします。

そういうことでお話を進めさせていただきますが、まずこのプログラムのやり方ですけれども、私が開催趣旨をいつものように市民参加懇談会の趣旨を、5分ぐらいでまとめて説明いたします。ただし、福岡でやる場合には九州電力が今プルサーマルを導入するというので、あちこちでご意見を受けようという会も開いているわけなので、テーマが例えば知りたい情報が届いていますかといったときに、プルサーマルの情報は届いてないじゃ

ないかという話になるかもしれません。それから、福岡も地震がありました。ですから、地震の話も出るかもしれません。その情報がどういうふうに届いて自分たちが納得できたのか、あるいは十分じゃなくて納得できていない、全く情報というものが無いとか。どういご意見が出るかわかりませんが、それはなぜなのかということまで究明していくことができればいいかなと思っております、まず時間ですけれども、13時30分から17時ということで、3時間半と考えておりますが、これによろしいでしょうか。

吉岡さん。

吉岡委員 幾つか意見があります。

木元座長 1の開催時間は3時間半でよろしいですか。

吉岡委員 時間は結構です。

木元座長 時間は3時間半、これによろしいでしょうか。

ご異議がなければ決定させていただきます。

それで、最初に、私が5分ぐらいお話をさせていただいて、1部を少し時間を減らすということはどうでしょうか。

例えば、90分ぐらいにして後に10分回すとか、110分にするとか。

吉岡委員 今は時間だけ議論しているんですか、中身じゃなくて時間……。

木元座長 ちょっと時間だけ先にやらせていただけますか。

吉岡委員 しかし、それは中身とも関連しますので、まず時間を決めるというのはどうもよくわからない。私としては、何をやるのかの設計を決める前に時間というのはちょっと……。

木元座長 先ほどちょっとご説明したように、問題提起という形で3人だったならばということですよ。

吉岡委員 それについては、私に意見があるわけですから、それを聞いた上で時間を。

木元座長 では、お願いいたします。

吉岡委員 その日は大学の会議があるんですけれども、何とか調整できますので、私も参加コアメンバーに含めてください。

木元座長 ご都合つきますか。

吉岡委員 はい、つきます。

木元座長 よかったです。

吉岡委員　そして、その上で言いますけれども、「知りたい情報は届いていますか」というような主題で論ずる以上は、伝える側と聞く側が対等というか、むしろ聞かされる側の方が主人公だと思うんですよね。この構成ですと、出光さん、井川さんの方は伝える側である。伝える側が最初に話してどうするんだというような点で、非常に大きな違和感がやはりあるわけです。ですから、せめて伝える側と聞かされる側、これの対等なシェア、あるいは聞かされる側が多いというような、そちらの方がバランス的にはいいんじゃないかと思います。

それと、この3人のバランスがもう1点悪いのは、推進的立場で全員固められているということでもあります。私は前回本人に断らずに例として深江さんという現地のNGOの中心的なメンバーを例示として挙げたわけですが、別に深江さんにこだわるわけではないですけれども、批判的なNGOの立場の方を入れるべきだ。これはもちろん聞く側、聞かされる側、聞きたい側だと思いますので、そういう方を入れることによって、今の枠をそんなに変えないとすると、もう1人批判的なNGOを加えればある程度伝える側と聞く側のバランスも保たれるし、あるいは推進的な立場と批判的な立場のバランスというのでも保たれると認識しますので、そのような提案をしたいと思いますが、いかがでしょう。

木元座長　今、こういうご提案が出ました。こちら側で事務局と一緒に考えましたことは、もちろんお一人ふやしたりすることは可能だと思いますけれども、今伝える側と聞く側とおっしゃいましたけれども、伝える側というのは井川さんは読売新聞でメディアにいらっしゃるから伝えるという、そういう解釈ですよ。

井川さんのご発言を以前別の会で伺っていると、この前も聞いていると、伝える側として、伝える側にも問題があるということで、まず自分の問題を取り上げている。それから、もう一つは受け手側にも問題があるということで、双方のことをおっしゃっていたような記憶がありますので、本来おっしゃりたいことがあるというのはそういうことかなと思いましたがお願いしました。かなり伝える側に厳しいご意見をおっしゃるのではないかと私は期待しているんですね。

ですから、今、吉岡さんのおっしゃった賛成、反対というのは、原子力発電に賛成、原子力発電に反対という立場の意味でしょうか。

吉岡委員　今の原子力政策の基本について、その一部に対しても反対している人は皆無であるというふうに私はこの3人について認識しております。基本政策です。

木元座長　政策に賛成、反対ということでは選ばなかったもので、おっしゃることはその

とおりになるかもしれませんが、今回政策論ではないので、情報にかかわるご発言を頂くことで交渉いたしました。

大谷さんは、情報の受け手という立場です。

吉岡委員 それもどうも本当かなという気がします。聞く側じゃなくて、この人も発信する側のサイドだと認識しているので、どうも宣伝要員を3人そろえたなど、悪い言い方ですけども。もっぱら発信する側が最初にこういう知りたい情報は届いていますかということで話すというのは、全員がどちらかという発信側の人話すというのは何か趣旨が違って、むしろ順序が逆なんじゃないかと、そんな気がします。

木元座長 大谷さんは何かご自分で発信していらっしゃって、通信も出していらっしゃるのを拝見したことがありますけれども、どこかでご一緒させていただき、ご発言も私は伺ったこともありますが、事務局もお聞きになったことがあるかもしれませんが、そのときには情報の受け手としてかなりいろいろなご意見をお持ちの方だと伺っておいりましたので、お名前を挙げさせていただいています。今、吉岡さんのご意見を頂きましたので、ご賛同なさるか、ご異論があるか、承ればと思いますが、どなたかいらっしゃいましたらよろしく願いいたします。

小沢さん、お願いします。

小沢委員 政策の話はないと言ったけれども、3人とも推進の側において、つまり質のことだと思えますよ、発信の内容は。だから、発信の態度が3人とも同じようなのはまずいという意見があるならば、それから地元別にほかにそれとは別の発信の仕方をできる、あるいは意見が違う人がいるというんだったら、その方を入れて時間を増やしたらどうですか。

木元座長 もうお一方、お二方。

さっき吉岡さんがおっしゃった深江さんですか。

吉岡委員 彼が受けるかわかりませんが、私は温厚で適切な人だとは思っています。

木元座長 福岡にお住まいなんですか。

吉岡委員 北九州です。

木元座長 いかがでしょうか、今、小沢さんのご意見もありましたけれども。

小沢委員 温厚じゃつまらないんだけど、温厚な人ばかり推薦されても困るんだけど。



木元座長 中村さん。

中村委員 吉岡さんのおっしゃることもわかりますけれども、そこで伝え手、受け手というのを何かざっくり分けちゃうのもどうかというところで、このスタイルにしようとした趣旨というのをもう一回考えた場合に、問題提起なり共通の知識情報を共有するというような、そういうような趣旨が特に消費地であるということで、もちろん玄海というのが隣の県にあるわけですがけれども、そういう趣旨でこの構成というのに到達したはずなんですよね。

そこで考えると、余り依って立つ立場というので分けるのもどうかというところはあるんですけども、つまりひょっとしてある偏った認識に立った発言ばかりになる可能性は確かにありますね。井川さんは僕はそれほどでもないと思うから、そんなに心配してないけれども、ただそれを受けて第2部で反論なりしてもらえばいいわけで、議論をするなりご意見を聞くという我々の基本のきっかけづくりを何とか1部でしたいというのが基本的な趣旨だと思いますので、そこで活発な第2部を誘導するような形になってくれればいいわけで、その意味で言うと、吉岡さんが言われたことに全面的に賛成するわけではないですが、ただ構成としてもう少し市民レベルの方の参加が第1部でもあってもいいかなと。2部はもちろんそちらが主役になるわけですがけれども、そういう意味で言うと本当にその人が受け手なのか、また違う伝え手なのかというのは別な話で、それは大谷さんについても言えることだと思いますけれども、批判的な立場にある方を加えるということについては私も全然反対はしません。ただ、パネルディスカッションという性格上、やたらにパネリストをふやしてもまとまらないことになっちゃうので、バランス的に言うともう1人ぐらい加えて、4人のパネリストというぐらいなら進行的にも割にスムーズに行くし、それだと100分とっておいてもいいかなという感じはしますけどね。

それで、第2部の100分はちょっと短いかなという印象は持っているんですけども、会場との関係ですけれども、一応17時終了予定ということで、会場が問題なければ30分ぐらいの延長は可という含みを持って、それは我々の方で第2部の状況で判断するというようなことでいいかなと思います。

木元座長 そうですね。ここでどうしても17時に終わるということではないと思います。ちょっと会場の状況はどうでしょうか、延長はできるでしょうか。

可能ですか、大丈夫ですね。

では、それである程度時間の延ばしはできるということで、今、1部について中村さん

のご意見もありましたけれども、1人ぐらいふやしてもいいんじゃないかと。その1人ということは、賛成派、反対派という意識による政策論ではなく、原子力にターゲットを絞りますけれども情報というのはどういうふうに、届いているか、届いていないか、それは知りたい情報か、届け方がどうなのかという論議ができればいいなと私なりに思っているんですが、吉岡さんのご意見もありましたし、そういうお立場の方、あるいは純粋に中村さんがおっしゃったように、本当に所長などの肩書がなくて、市民というレベルで、NPOのお一人という形でご参加いただける方がいらっしゃれば、それはよろしいと思うんですけれども、ほかにご意見がございますか。

小川さん。

小川委員 先ほど吉岡先生がこのパネリストの皆様方が宣伝の3人をそろえたというようにおっしゃり方をされたんですが、ちょっとそれは言い過ぎではないかと私は思います。

私は大谷さんと井川さんの日ごろのご主張とかお人柄をお聞きしていて、必ずしも全面的に今の原子力の特に情報発信に対するやり方について、イエスだと言っているわけではないですよ。いつも叱咤激励といいますか、常に批判すべきことは批判して、バランスのとれた発言をされていると思います。また、私も賛成派、反対派、そこでバランスをとるとのことばかりに腐心をする必要もないんじゃないかなと。

ただ、見た目がちょっと一瞬イメージとして偏っているということをそういう嫌いをなくすためにもう一人増やすというご意見が多ければ、それにあくまでも反対するわけじゃございませんけれども、パネリストは3人ぐらいが適当だという基本的な思いは私はあるんです。ですけれども、4名で見た目のバランスをとった方がいいというご意見が多ければ、それに強く反対するものではありません。ただ、原案でも十分それぞれの方は客観的な立場で物を言えるし、見ている方だと思いますので、偏っているという吉岡先生の見方もまたちょっと偏っているんじゃないのかなという気がしました。

小沢委員 見た目のバランスというのは変なものよ。真ん中の人を減らしちゃえばいいじゃない。1人減らせば。

木元座長 減らすという意見も出ましたけれども。

小沢委員 見た目のバランスとかって、そういうのはおかしいよ。

小川委員 ですから、4名にしましょうというのがそういう考え方から出てきているのをそのままそうかなとも思わないのですが、多数意見がそうであるならばあえて反対はしませんということです。

木元座長 小川さんは基本的には3名ぐらいが適当じゃないかと。

小川委員 適当だという考えではありません。

木元座長 あとどなたか。

井上さん、きょうはお疲れさまでした。何か飛行機がおくれちゃったそうですね。

井上委員 すみません、おくれまして失礼しました。

途中なので、ピントが外れているかもしれませんが、人数のこととは思わなくて、私は大谷さんが地元で暮らす女性、もしくは消費者、学者でいらっしゃる先生とメディアというならば、地元の方は玄海の方ですね。その方はその4名にするならお入れした方がと。

というのは、消費地で開くわけですけれども、本当にすぐ隣に町があっても立地地点のことをよく理解したり、情報が入るかということそんなものではないと思うんですね。福井県のことを見ても、そんなふうになかなか情報が入らないので、パネリストにお一人入れる余裕があるなら、地元の方というか玄海の方、立地地点の方を入れるというのは、そのパネリストを選定する上で正しいのかどうかよくわかりませんが、これを見て思いました。

木元座長 大谷さんは福岡で大消費地の方だからというご意見ですよ。

井上委員 というふうに見ました。

木元座長 そうすると、福岡ではなくてサイトということ、玄海か川内かということになりますよね。そういうお考えも出てきましたけれども、いかがでしょう。

東嶋さん。

東嶋委員 吉岡先生がおっしゃったように、地元の市民代表の方を1人加えていいと思っていましたところに、井上さんのご意見で、やはり立地地点の方のご意見も入れて、そして消費地であるんですけれども、立地地点の方のご意見を何うという意味も含めて4人にした方がいいのではという気持ちに傾いたんですが。

木元座長 先ほど吉岡さんがお名前を出してくださった深江さんという方は北九州市、玄海ではない。

吉岡委員 北九州市だと記憶していますが、玄海の方とは日常的に交流があるという、そういう人ですけれども、私の意見としては、福岡でやるのに何で、玄海の人を呼ぶのか。現地はプルサーマルで沸き立っていて、何回も何回もこういうイベントはありますし、あるいは佐賀でも文脈は別ですけれどもあるのです。福岡は大都市かわかりませんが、そこをターゲットに絞るとすると、川内とか玄海とかはちょっと違うんじゃない

いだろうかと思います。それはそれでまたやればいいだし、大都市を開催地として設定したからには、都市住民を選ぶというのはごく普通の選択肢なので、立地地域の方をあえて選ぶのはいま一つ必然性がわからないというところです。

中村委員 今回の趣旨から言うと、井上さんのご意見ですけれども、お隣、佐賀県、玄海立地というのは、全然考慮する必要はないと思いますね。やるなら、それは玄海で我々はやらなきゃいけない、川内でやらなきゃいけないわけで、今回はもともとの趣旨が違うので、福岡県、もちろん隣の佐賀県、大分県も含めた中心地で消費地だということで福岡を選択しているわけですから、特に都市部の消費者の方たちに知ってほしい、あるいは知りたいことが届いているかどうかということをお我々は知りたいわけで、もともとの趣旨がそうだったので、吉岡さんのご意見からちょっと今揺れ始めていますけれども、もともとの趣旨をもう一回考えると、玄海立地の方をパネリストとしてお招きするというのはちょっと趣旨が違ふと思います。

井上委員 すみません、訂正します。

玄海というのはすぐ福岡に隣接していますね。そうでもないんですか。

木元座長 離れていますね。

中村委員 市としては隣接していません。間に唐津はあるし、前原があるし、隣の県ではあります。

井上委員 福岡にとっての立地地点という位置づけで私は見てましたので、そういう意味に入れて、まだまだお話を聞いたらと思ったんですけれども、ちょっと訂正いたします、そういう意味では。

木元座長 小川さん。

小川委員 大都市ということを考えますと、原子力に関心が薄い方々への最初のアプローチということですよ。そうしたら、なおさら反対だ、賛成だという前の話だとますます思ってきました。

木元座長 それで、今パネリストを1人ふやすというお話の方向に傾いているんですけども、どういう方をお願いしたらいいかという部分でご意見はおありですか。

小川委員 それは、私は3名ぐらいが適当だという意見ですので、あとは多数決にお任せします。

木元座長 どなたか。

新井さん。

新井委員 私は玄海の人に来てもらうというのは、個人的には大賛成ですね。

というのも、私自身がそういう機会が余りないというせいもありますのが第一の理由ですけれども、やはりせっかくここに行ってプルサーマルの話が多分出るであろうというようにことでありますと、現地の人に話を聞けるということが私個人としては非常にありがたい機会かなと思います。

その場合、吉岡先生のポイントから言うと、もし玄海から人を呼ぶと、お願いするということに関しても、賛成派の人が、反対派の人はという話がまた出てくるんだと思うんですけれども、それは一応置いておきますと、私はむしろそういう人に加わってもらって、福岡でやるんですから、関心のある人がたくさん集まるのかもしれないけれども、埼玉なんかのケースで私が身近に感じたところによれば、余り関心が非常に薄いということもあるので、むしろ玄海の方がいた方がかえってこの場としては十分にいい状況になるのではないかというふうに思いますが、いかがでしょうか。

木元座長 ありがとうございます。

今のご意見に対していかがでしょうか。

先ほど中村さんがちょっとおっしゃいましたけれども、玄海、唐津、佐賀市というのは頻繁にやっていますね。ご意見を聞く会でもあるし、討論会でもあるし、説明会でもあるし、ですからそれはそれで開催の意味があるんだと思うんですが、市民参加懇談会として福岡で開催させていただくときは、福岡という大消費地の中で、この原子力の情報というのはどの程度届いていて、どの程度把握されていて、それが本当に自分が納得できる情報で知りたい内容なのか、そしてそれについて何か聞きたいことがあったときにどこに連絡したらいいのか、そういう問題を聞くことが主眼でしたので、佐賀というか、サイトの玄海町なりでやる場合には、また違ったテーマでお話しした方がいいのかなと。

例えば、プルサーマルですが今あそこは導入ということではいろいろな形でお話し合いされていますから、プルサーマル導入のことに特化される形になってしまう。プルサーマル是非論に行きかねないというような懸念が私には若干ありますので、その方向で行くことがいいのかどうかという論議のあるところです。福岡でやった場合に玄海の方、あるいは別のサイトの方も来ていただけたらと思うので、2部の方でご発言するチャンスがあるかなと。「私は玄海に住んでいますけれども、情報はこうです。プルサーマルの情報はこうです」、こうですということをばんばん言っていただくチャンスがあるかなと思うんですけどね。ですから、パネリストとしてお話しした場合に、一方に偏ってもしようがない

ですけれども、その辺ちょっと私も判断しかねるので、蟹瀬さん、お聞きになっていていかがですか。

蟹瀬委員 僕はここのところ参加させていただいてないので、僕の都合ですけれども、余りえらそうなことは言えないんですけれども、今のお話を伺っていると、この会の位置づけで啓蒙的なことをやるのか、それとも福岡というところの方々がどういう感じにいるのかというのを抽出する会なのかというところで参加者はやはり変わってくると思うんですね。

さっき木元さんも中村さんもおっしゃっていたようなことからすれば、やはり福岡というところに焦点を当ててやるべきでしょうし、そうすると今のお話を伺っているとこのお三方で不満があるというなら、もうお一方地元のNPOのような方を参加させてやればいいのかという気もしますね。それから、玄海とか、そういうところの方は今回は今、木元さんがおっしゃったように、第2部の方で発言していただくなり何なりという方が適切なような気がします。

木元座長 ありがとうございます。

岡本先生。

岡本委員 私は何かこの3名に関してはこのままでいいのではないかという感じを持っているんですね。それより、何かこういうことを言うとまた何か話が粉々になりそうな気がしますけれども、地元の方も特にこういうことにおいでくださる方のお気持ちを考えたときに、せっかく委員長がいらっしゃるのに委員長の顔を地元の人をきちんと見たくないですかね。つまり、例えばこれは結局今のお話を伺うと、2部の要するに聞く方が主なんですよね。それを導入する助けとしてとりあえず1部を持っているわけですよね。2部の間は聞くことに徹しているわけですよね。

ただ、地元の方にしてみると、せっかく委員長がお見えくださるのでしたら、政策とか何とか、そういうものに対する信頼感をどうやって形成されるかというのは、社会心理学的な話なんですけれども、そのほかに顔が見えるとか、こういう雰囲気の方がやっているのかという要素は存外重いんですよね。ですから、委員長が余り意味のあることをおっしゃらなくてもいいと思うんですけれども、全部終わったときに、5分くらいでも皆さんのお気持ちはよくわかりましたというような趣旨のことをちょっと本当に5分くらいでも地元の方がこういう雰囲気の方がやっていたらいいのかということがわかるような感じがあると、何かとてもいいような感じが僕はするんですけれども、それは概念上非常に大き

な変更事由であるかもしれないので、これまでの流れとの一貫性とかという問題があるとは思いますが、ただ私は出させていただいたときも最後に数分くらい、来ている人が委員長の声が聞きたくないかなということをやっと思いましたね。

木元座長　そういうご意見が出たところで委員長、何か。

近藤委員長　私は発言しなかったのは最初の会だけだと思いますね。そのほかでは大体話させられた記憶がありまして、いい印象を与えたか、悪い印象を与えたかはわかりませんが、私は誠意を持って、顔が見えるというか、考え方が伝わるように努力したつもりです。これからのことについてはマネジメントというか、会のオペレーションの中で司会の方が適切にやっていただければと思っています。機会をよせていただければ当然のことながら、責任者としてそういう時間を持ちたいと思いますが、委員会のしかけの一部であることを考えれば、持たせていただければ幸いです。

中村委員　何か実際の構成上で岡本先生が言われるように、どこかのところで委員長、最後にごあいさつみたいなのが次第として入っていると、またちょっと違うかなという感じはするんですけども、現実には一番最初に発言をお願いしたときも、私が進行をやっていたんですけども、委員長には断りなしに会場のご意見の雰囲気、ここはやはり委員長に一言お伺いしなきゃいけませんねということで発言を促すという形でこれまでも何回か発言していただいて、原子力委員会って何やっているんですかみたいな部分もあったので、それは具体的に実際の運営の中でマネジメントとしてご発言していただいていますので、その趣旨はちゃんと生きていますから、大丈夫だと思います。

それから、新井さんが言われたことについては、お気持ちは僕も非常にわかるんですが、僕自身は玄海に何十回って行っているから、雰囲気もわかるんですけども、ただ2部で多分発言される方はいるかもしれないけれども、それよりも僕は福岡という、あるいは北九州でもいいんですけども、都市部の人たちが隣の県ではあるけれども、はっきり言って玄海町って不便なところで遠いんですよ。そこでプルサーマルという焦点になっている日本の原子力政策が今動き出しているというところの距離感みたいなものをはかるためには、あえてパネリストに現地の人をお呼びしない方がかえっていいんじゃないかなという印象は持っていますね。聞きたいなら、玄海なり唐津なりへ行くべきだというふうに思います。

新井委員　ちょっと私は異論がありまして、多分よくわかりません。福岡というところがどういうところか、ほとんど知りませんのでわかりませんが、例えば埼玉でやったときの経験で言えば、具体的に現地の人のお話を聞くなんて機会は多分埼玉県の場合はほと

んど皆無であったろうというふうに思うんですね。ですから、逆に言えば福岡の人も玄海の人のお話を聞く機会がないというふうに考えると、それは玄海の人を呼ぶことがそんなに否定されるべきとは私は全く思いませんが。

中村委員 ただ、埼玉、福島との関係と玄海、福岡との関係は違いますよね。

新井委員 それはもちろん違うでしょうけれども。

木元座長 埼玉の場合と東京でやった場合と今回の福岡というのは、若干テーマは違いますけれども、似た部分というのは、大消費地の中で知りたい情報はどのくらい届いているんだらうか、ということが前提にあります。それで埼玉でやった場合には、東電の不祥事があって、原子力発電所が全部とまる、もしかしたら、猛烈な暑さになると停電になるかもしれない。そういう危機感がありました。

それを前提に、このときはパネリストで3人出ていただきましたけれども、お答えいただく、あるいはご説明いただくという立場で、不祥事を起こした東電の方もいらしたし、この国の方も参加されていた。そのようなことで、テーマはある一つのことには絞られていたことはたしかなんですね。そこで、埼玉では、知りたい情報は停電のこと、あるいは東電がなぜこういうような不正記載をしたかということに終始したということであったんですけども、それも情報が正確に届いていなかったということで、お互い確認し合えた記憶しております。今度福岡で開催する場合も、九州電力さんはブルサーマルを導入するらしい、だけれどもその情報は私たちには届いていないから、賛成とも反対とも言えない。情報がよくわからないものはやりたくないとか、あるいはこういう情報のあり方ならわかるか、何かそういうようなことが消費地から発信していただければありがたいなという気があるんです。それは中村さんもおっしゃったけれども、現地の玄海に行くとか割合ブルサーマルに絞っての情報というのは出ているんですね。

新井委員 私が言っているのは少し違まして、都市部の人のお原子力への関心が薄いから、そういうところに現地の人の声が届くという機会と考えれば、現地の人もいた方がいいのではないかとということであって、現在ちょっと視点が違うような感じがしますね。

埼玉のケースは私は多分出させてもらったんですが、単なる観念論的な話に全部行ってしまって、正直言うと意味を余り感じなかったんですね。現地の人の声を聞けるという機会が多い方が福岡でやるんでしょう。そういう場合はそちらの方が重要ではないですかと、ベースな機能を考えて言っているんですが。

木元座長 そうすると、いわゆる大消費地と電力の生産地と、そういうようなことの交



流というか、意見交換の場として……。

新井委員 機能してもいいんじゃないですかということです。

木元座長 それはあり得ることだと思いますが、今回はそういう趣旨でやっていないので、次の機会にはぜひそういうことを考えることは可能だと思います。

それで、先ほど申し上げたように、今の新井さんのご意見も重要なので、例えばずっと1部の問題提起を聞いてくださっていて、第2部でちょっとあなたたち、現地は違うよということを2部で発言していただくということはだめでしょうかね。

新井委員 いやいや、だめとは言っていないです。

木元座長 そういうことはあるかもしれないなとは思いますが、新井さんのご意見は重要だと思いますが。

吉川さん、お聞きになっていていかがでしょうか。

吉川委員 私はちょっとその辺はわからないんですけども、聞く側に立ってみると、パネルディスカッションでどういう議論がされているかということは、ある種発言を例えば2部になって、自分がフロアに徹しようかというときに、発言の許容度というんですかね。これは言ってもいいか、悪いかみたいなのが決まってくることは若干あるかなと思うんですね。

つまりもちろん自由に発言してはいいわけですけども、パネルディスカッションでということが話されたかということによって、若干その方向性みたいなものははかれるところもあるかなと思いますので、もちろん全くパネルディスカッションでは話されていない対立した意見や、それから議論されていない新しい話題を出して、第2部で話すということがおできになる方もあるかもしれないけれども、全体としてそうでないかもしれない。私は今ここに出されておられる3人の方のお立場がどういう立場がよくわからないんですけども、吉岡先生がおっしゃるとおりかもしれないし、反論されているように、そうでないかもしれない。しかしもしこの3人の方が偏っておられるという懸念があるのであれば、もう一方を足してバランスをとるということもある。必ずしもそうでないということであれば、3人のままだでもいい、要するにどちらでもいいと考えています。ただパネルディスカッションで議論がどういうふうに行われるかということは、割と重要ではないかというふうに思っています。

木元座長 パネルディスカッションと一応書かせてはいただいておりますけれども、ご自分がこのテーマに関してのどういう問題意識を持たれているのか、その問題提起をして

いただこうと。一つのこの会の進行、会場のご意見を引き出すためのプレゼンでもあるわけですよ。だから、ここでディスカッションになるか、ならないかはやってみないとわからないし、全く相反したもののだけに終始するかといったら、そうじゃなくて同じ方向の問題が出るんじゃないかと。それは聞き手、受け手側への批判であるのか、情報の送り手側への批判であるのか、いろいろあると思います。だからそれをお聞きになっていて、第2部でわっと意見が出てくると、一番いいだろうと思うので、そういう効果を1部の方で出していただきたいと私は希望しているんですけども。

ということで、なかなかまとまりにくいんですが、今3人か4人かに一応数字的なことで絞らせていただくと、3人でもいいというのもあるし、もう1人ふやした方がいいんじゃないかというご意見もある。4人にして、もう1人ふやしましょうか。やりにくいということがありますか。

小川さん。

小川委員 多くの方が4人目の地元の方になるか、NGOの方になるかはちょっと別。

木元座長 地元かNGOかNPOか。

小川委員 NPOの方になるかは別として、多くの方がそれに異論がなければ私もよろしいかと思えます。

木元座長 井上さん、大谷さんは消費者代表でずっとやっていらした方と考えていいわけですよ。この会の所長なんていう肩書がついているので、迷うんですけども。

井上委員 ふだんどんな活動をされているかはちょっと存じ上げませんが、もしこういう女性のくらし研究所ということの肩書で所長というお立場でおっしゃるとすると、いわゆる原子力そのものの個別の問題というよりも、エネルギー問題とか暮らしの省エネの問題とか、いわゆる暮らしレベルでおっしゃるかなという気はするんですけども、余りよくわかりません。すみません。

松田委員 私はしばらく欠席していましたので、組み立ての中の過程は参加していませんけれども、おもしろくするためには4名でやっていく方が活気が出るだろうと話を聞いていて思いました。4名だから100分だけれども、3名だったら100分も聞いている方は退屈するかなという気もしましたので、4名でいきますか。

木元座長 いきませんかというご提案です。いかがでしょうか。

よろしいですか。

松田委員 新しいファンや新しい原子力の理解者を1人ふやせるかもしれないし、反論

がある中でこちらとしても勉強させていただくこともできるわけですから、新しいメンバーを1人加えたらと思います。

木元座長 あくまでもこれはたたき台案としてお出ししたので、いかようにも皆様のご意見を出していただき、まとめていきたいと考えていますので、今4名というのが出ましたが、もしご異論がなければ4名ということにさせていただいて、そのお一人を先ほど吉岡さんのご推薦がありました深江さんとか、それ以外にこういう方がいるということがございましたらお願いしたいと思います。

吉岡さん、そのほかにいらっしゃいますか。

吉岡委員 今特に頭の中にはありませんが、探せと言われればまた何人かは挙げることは二、三日中にはできます。

木元座長 吉岡さんから案を出していただいて、事務局の方でもその方をリストに入れ、スケジュールなどを他の候補の方とともに伺わせていただくという形をとらせていただきますが、よろしいでしょうか。

中村委員 基本的に、私も残念ながらこの大谷さんという方と面識がないので、どういふ方が存じ上げないんですけれども、特に市民レベルでのお立場で出席される方は、活発なご発言をされる方、言いたいことをはっきり持っていらっしゃるという方を選考基準第一にさせていただきたくて、口幅ったい言い方ですが、資源エネルギー庁などでさまざまな形のイベントを展開するとき、必ず地元の方というのをパネリストに加えたりするわけですが、どうも無理やり発言させているというレベルの方が多くて、それこそ形を整えるだけの発言者という例ははっきり言ってありますので、我々のこの会だけは特にコアメンバーがあなたの考えていること、感じていることを聞きたいのよということで行くわけですから、発言するコアをちゃんと持っていらっしゃる方を選びたいというところなので、そういう意味で言うと、4人にできればもう一方市民レベルの方というふうに私は思いますし、もしそういう発言者がいらっしゃるのであれば、どうしても3人ということだったら、僕は有識者、大学教授は外してもいいと思っていますけれども。

木元座長 そういうご意見、そうすると4人で。

中村委員 4人で、できればもう1人発言力のある方。

木元座長 その4人目の方は。

中村委員 4人目の方は発言するものをお持ちで、ぜひ発言したいという市民の方、市民レベルの方をお招きするのがいいかなとは思いますが。

木元座長 いろいろなネットを調査したり、事務局で調べていただいて、候補を数人挙げていただき、順次交渉をし、その結果はこうだということをお知らせします。それで、4人という形でまとめ上げていきたいと。

よろしいでしょうか。

さて、そこで一番問題なのは、1部、2部を通じて司会をしていただく方なんですけれども、コアメンバー会議にて決定ということになっておりますが、いかがでしょうか、ぜひやりたいという方がいらっしゃったらお願いしたいと思います。

なかなかこれは決まらないというか、ある程度のものを知っていらして、そしてその中でうまく裁いていただかなきゃなりませんので、ちょっとご苦労があたりだと思っておりますけれども、中村さん、この日はだめなんですか。26日は予定に入っていない。

中村委員 現時点では25、26と那須の方へ行っている予定になってはいるんですが、そのこの会合というのがちょっと私以外にもスケジュール変更の必要な人が出ているので、あさって最終的に日程が決まるんですよ。現時点では、25、26とちょっと仮予約が入っているものですから、僕は×印でご返事したいんですけれども。

木元座長 そうですよ。

そうすると、それは那須でのお仕事がもしかしたらなくなるかもしれないんですね。

中村委員 那須を2日繰り上げるという今案がありまして、23、24にするという案があるので、それがあさって決まれば問題ないんですけれども。

木元座長 26日、福岡にいらっしゃることは可能だと。

中村委員 それは大丈夫ですね。

木元座長 私の推薦というか、いつもお願いして申しわけないんですけれども、なれていらっしゃるところで裁いていただければありがたいなという気持ちがあるので、中村さんのスケジュールがあけばお願いしたいという思いがありますが、何か私の独善的な判断で申しわけありません。蟹瀬さんはだめなんですか。

蟹瀬委員 僕はこの当日テレビの仕事が入っておりまして、これはちょっとキャンセルできないんです。

木元座長 絶対できない。

蟹瀬委員 はい、すみません。

木元座長 小沢さんはいらっしゃられる。

小沢委員 これはオーケー出しちゃったのかな。

木元座長 事務局、どうでしたっけ。

小沢委員 私の名前が載っている。

木元座長 午前、お昼、午後と何かあって、どっちが×でしたっけ、小沢さん。

小沢委員 13時からというのは間に合わないと思いますよ。飛行機が間に合うのかな、間に合わないんじゃない。それに女ばかりじゃないですか、中村さんに何とか入ってもらった方がいいですよ。

小川委員 女性が多いというのがちょっと気になる。

木元座長 松田さんは大丈夫なの。

松田委員 私はこの日授業の日なの。だから、何で が入っちゃったの。

木元座長 何でだろう、 だったの。

松田委員 多分ね。

木元座長 ああ、そうか午後だと思って。

松田委員 はい、夕方……。

木元座長 授業というのは、静岡ですよ。

松田委員 そうですよ。

木元座長 きょうもすみません。

中村委員 羽田発何時の飛行機だったら間に合うの、10時。

木元座長 10時ごろの飛行機で間に合います。

中村委員 10時だったら大丈夫。

木元座長 吉岡さんはしょっちゅう飛んでいらっしゃるからご存知ですよ。

吉岡委員 十分間に合います、11時過ぎくらいでも。

ただ、もし無理な場合には第1部と第2部の司会を分けるということもありますよ。

木元座長 私は司会は分けないほうがいいと思います。でも、中村さんがだめならば……。

中村委員 那須から羽田まで何時間かかるかな。

松田委員 新幹線を使えば。

中村委員 新幹線だと那須塩原って東京まで1時間くらいだっけ。

松田委員 そうですよ。

中村委員 それでは、10時の飛行機に乗るというのは、一応可能は可能ですよね。

木元座長 蟹瀬さんか中村さんかと絞られたわけですけども、蟹瀬さんは絶対だめな

のね。中村さんに、じっと視線が行きますが。

中村委員 一応そういう予定になっているんですけども、25日の夜というのが那須で会合があって、次の朝帰ってくるだけですから、10時の飛行機に乗れるという計算が立ちそうですので、ただ日程が変われば全然問題ないですけども。

木元座長 オーケーですね。

一応、それで中村さんということをお願いしてよろしいでしょうか。

中村委員 一応正式決定は48時間待ってくださいね。

木元座長 わかりました。お待ちしております。

中村さんがどうしてもという場合には、また改めてご意見を伺いますが。

1部、2部はそういうことで、中村さんに通していただきます。ありがとうございました。

そこで、パネリストを4名にする場合、今はお名前が出なくても、後からでも結構ですから、明日中にでもこういう方が福岡にはいますということがありましたら、ぜひ事務局の方にご一報いただければありがたいと思うんですけども、それでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それで、今4人になりましたので、一部は100分ということにさせていただきます。

それから、休憩はこれは10分程度でよろしいでしょうか。

中村委員 実際には15分かかりますね。

木元座長 ちょっと押すかもしれないけれども、実質15分程度ということで。

それから、第2部の方に移らせていただきますが、100分程度という形になっておりますけれども、これは20分は延ばせるということにしておきます。

そこで、福岡行っていただけるのは、きょう碧海さんはご欠席ですけども、碧海さんは ですか。

左藤 です。

木元座長 新井さんは。

新井委員 大丈夫です。

木元座長 ありがとうございます。

小川さんもオーケーですね。

小川委員 はい。

木元座長 小沢さんは、危ないのね。26日ですけど、オーケー。

小沢委員 私、何で になって、出席になっているのか、ちょっと調べてないのでわからないんですけれども。

木元座長 10時ちょっとごろの飛行機で間に合いますから。

小川委員 今、手帳はないんですか。

小沢委員 手帳というものは持ったことがない。

木元座長 また後で。

小沢委員 だめだと思いますね。

木元座長 一応 にしておきますね。

東嶋さんは大丈夫。

東嶋委員 すみません、私も今ちょっと で。

木元座長 で、はい、わかりました。

松田さんはだめでしたね。

松田委員 はい、すみません。

木元座長 吉岡さんは何とかありますか。

吉岡委員 何とか出ます。

中村委員 コアメンバーの方は2部だけでも間に合えばね。1部が無理でも、コアメンバーは2部に間に合えばそれだけでも参加してもらった方がいいですけどね。

木元座長 そうですよ。

そうすると、2部が始まるのが90分だから3時ですね。3時ごろもし間に合うのであれば、3時までにお越しただければありがたい、そういうことでお願いしたいと思いません。

それで、2部の方で会場からご意見をいただくのですけれども、コアメンバーは、前提としてあくまでも皆さん方のご意見をお聞きする。中村さんの誘導で会場からお声をいただきますけれども、そのときにどうしても事実ではないとか、それから意味がよくわからないという場合は、こちら側からご発言いただいた方に、ご意見を再度伺う、より深めるということはしていきたいと思うんです。会場の設営はいつもと同じようにいたしましょう。

中村委員 会場はどんな感じになりますかね。それによるんだけど。

木元座長 会場の設営のご説明は、事務局でできますか。

中村委員 ステージのあるところ。

左藤 平場です。

中村委員 平場ね。

平場ですと、1部は聞いていただくという形でいいけれども、2部は平場だったらうまくコアメンバーの座り方を考えて、こういう感じにならないように、ご発言について、その追加的な質問とかといういつものコアメンバーの質問の仕方がやれる形の方がいいんじゃないですかね。

木元座長 今、赤池さんが図面持っています。

中村委員 平場だったらいいですよ、ステージじゃなく。

木元座長 ちょっとお返ししようか。

遠くからですが、今お返ししますけれども、ここは、一応ホテル。

赤池補佐 アクロスという会議場ですね、ホテルですか、これは。

木元座長 ホテルではないけれども。

赤池補佐 会議場ですよ。

木元座長 敦賀で開催したときと同じ形になるんじゃないかと思うんですが、あるいは埼玉と似たような感じかな。平場ですけれども、周りを、福島のように囲むんじゃなくて、こちら側にコアメンバーが座って、最初のご発言者はこのへんに座っていただいて、コーディネーターが中心に座るという感じですよ。

中村委員 そういう感じね。

木元座長 それで、座席がどうしてもこういうふうにしかとれないようなので、200名程度ですけれども、こんな配置になります。この辺にマイクを出して、ここに来てご発言をしていただくということになると思います。ですから、ちょっと観客と対峙する関係にはなっちゃうのね。

中村委員 青森の感じですね。

木元座長 青森でやった時と同じかも。ちょっと図面を回しますね。

中村委員 今の並びというのは2部の並びでしょう。

木元座長 2部の並びですけれども、最初の4人もその位置に初めから座って、我々も初めから座っている。井上さんと最初に開催したのどこでした。

中村委員 1部もみんな壇上でコアメンバーが座って見ているわけ。

木元座長 最初のころのパターンですよ。確か碧海さんと2人でやっていただいた。

中村委員 あれは結構違和感があるんだよね。



近藤委員長 パネルのときは。

中村委員 パネルのときはパネリストだけの方がいいんじゃない。

木元座長 こっちが下がっていてね。

新井委員 パネルだったらね。

中村委員 2部はそういう感じになっていいけれども、全員いてお聞きします。

木元座長 その感じですか。パネリストにも座っていただいて。

中村委員 パネリストも。

木元座長 そうです。

近藤委員長 2部のときにパネリストの方に入っていただくか、いただかないかは大きな選択ですよ。市民懇談会のこの従来どうしていたのか、僕はわかりませんが。

木元座長 今までも入っていただきましたね。

近藤委員長 そうなの。

木元座長 パネリストに対してご質問が来たりしていたから。

そうすると、1部はパネリストと中村さんという感じになっていて、コアメンバーその他は別の席にスタンバイしている、そういう感じになりますね。休憩の間に今お返ししているような図式になると。それでいいでしょうか。

中村委員 2部はパネリストがいない方がいいかもしれないですね。

木元座長 そうしますか。

ただ、質問が来たりしたら、あのときどうでしたっけ、井上さん。

井上委員 最後までいらっしやいましたね。

木元座長 最後までいらっしやいましたね、その席にね。

コアメンバーじゃないけれど。

近藤委員長 質問が来るのは構わないので、別にまさに第1部と同じように控えていただいて、コアメンバーと席を入れかえればいいわけですからね。

木元座長 そうねえ。

近藤委員長 それは何とでもなるんですけどね。

木元座長 そこはちょっと考えさせてください。また、中村さんともご相談して、司会の方が進行しやすいような形をつくっていきたいと思います。

中村委員 最終的には、パネリストと会場とが議論になるという状況がいいかどうかだと思っんですよね。それを踏まえてのご発言を聞くというのが趣旨なんだけれども、だか

らそのところで、委員長と同じようなお立場で、どうしてもそれについては誤解があるとか、発言について誤解があるとか、説明を加えなきゃいけないというときは発言していただかなきゃいけないと思うんですけども、我々と一緒に並んじやうと、コアメンバーと一緒に並んじやうと、発言がマストになるようなケースも考えられますよね。そうなるので、ちょっとせっかく1部のパネリストだったのとダブっちゃうのかなというところがあるので、2部は聞くならコアメンバーが基本という方がいいのかもしれないですね。

木元座長 このメンバーがここに座って。

中村委員 ええ、それで逆に委員長や何かと同じように最前列なりに座っていただいで、発言の必要があればマイクをお渡しすると。

木元座長 前に出ていただくと。

中村委員 そういう方がいいのかなと感じます。ちょっと検討の余地はありますね。

木元座長 中村さんのご発言の形でちょっと考えておきましょう。その方がいいかな、現場にはいていただくということで。いざというときには出ていただいで、交流していただくということはあるというか、それが必要かもしれません。そういうことにさせていただきます。会場は200名程度と先ほど申し上げた形で進行させていただきます。

第2部の発言ですけれども、3分程度ということは守っていった方がいいですよ。お一人ご発言は2、3分。そうすると、3分として何人出来るかな。

中村委員 3分と言っても3分で終わってくれる人はなかなかいないけど。基本は3分で、最低でも30人は聞けるという計算にはなるんですけどね。

木元座長 それと、こちら側からまた投げかけたり、司会が間に入るということを見ると、20人ご発言いただければいいと。

中村委員 20人ぐらい出ればいいところでしょうね。

木元座長 そうですね。

そういう感触でさせていただきたいと思います。

それから、皆様方の当日の行かれる、行かれないはまだペンディングの方もいらっしゃいますけれども、再度承らせていただくことにし、今後のスケジュールということで、福岡で開催の場合、行かれる方は日帰りで朝何便の何でいらっしゃるか。井上さんはこの日はだめでした。

井上委員 調べます。

木元座長 調べてください、すみません。

それで、新幹線でいらっしゃるか、あるいは飛行機でいらっしゃるか、その辺の確認を事務局の方からさせていただこうと考えております。

あるいは前日どこからかいらして福岡でお泊まりになるとか、いろいろおありになると思いますので、チケットの購入をどうするかとか、その他を含めてまたご案内を差し上げたいと思いますので、よろしく願いいたします。

何か会場の雰囲気をとというのでコピーしていただいたようなので、お配りいたします。

赤池補佐 この会議場の雰囲気がわかるものをコピーさせていただきましたので、皆様に配付させていただきます。

木元座長 このお配りしている1枚目は、これはスクール形式になってますね。そうすると後ろに下げて前にコアメンバーとかパネルのセットをするということですね。

赤池補佐 はい、それも可能でございます。

中村委員 そんなに高い壇じゃないんでしょう、低めなんでしょう、壇じゃないんですね。じゃ、同じ平面で、それだったらいいですね。

木元座長 いいですね。

では、そういうことで何か第1部についてご意見、あるいは何かご質問おありでしたら、おっしゃっていただければと思います。いかがでしょう。

よろしいですか。

そういうことで、だんだん固まってきましたので、あとお1人のパネリストの候補がありましたらご意見いただきたいと思います。吉岡さんから深江さんというお名前が出ておりますので、一応リストにあげさせていただこうと考えます。

今ご連絡先わからないですね。

吉岡委員 家に帰ってからメールで送ります。

木元座長 そうですね。

吉岡委員 今ちょっと控えてないから。

木元座長 いつ帰られますか。

吉岡委員 東京にも自宅はありますので、そこに一たん戻ってそこで。

木元座長 では、すみませんが、お願いいたします。

他の委員の方も何人が候補を推薦していただきたいのと、事務局も考えるということにさせていただきますので、よろしく願いいたします。原則4名で消費者代表というか、市民団体の方からお一人ということにさせていただきます。

では、今度は議題の2の方に移らせていただきますので、資料の22-2号に移ります。

これは前回皆様方のところにファクスでお送りしたものと同じですけれども、今度は静岡で開催するというので、きょうも会場にお見えですけれども、東井さんの方からご提示がありまして、静岡市、あるいは御前崎市ということでご討議を先日いただきました。

この件で少しお話しをいたしますけれども、思い出しながら経緯をなぞります。開催は福岡での開催の後でin静岡。これは仮称です。東井さんのご要望は御前崎なので御前崎になるかもしれませんが、「in何々」と、こういうことにいたします。

それで、東井さんたちの「語るかい」ですが、メールを頂いておりまして、ここに書いてありますように、in福岡より後はやむを得ないとして、いつごろを想定しているのかというご質問がございました。

それから、2.の開催地の候補は静岡か御前崎かということですが、「語るかい」の方は御前崎と静岡では全く意味が違うということで、ここにご意見がたくさん出ております。

その後の方に、福岡より後はやむを得ないとしていつごろを想定しているのか、できるだけ早くということ、きょうぜひご討議いただきたいと思います。

しかし、静岡でやる場合でも、御前崎でもテーマは「原子力とくらし～知りたい情報は届いていますか～」ということにさせていただくことで委員の皆様のご同意をいただきました。

2枚目の4.プログラム案ですけれども、第1部は発言者としてのパネリストからご意見をお聞きするというにさせていただきたいので、ご発言希望の方はあらかじめご発言したい内容を書いていただく形で公募をするか、または、これは福島バージョンですけれども、公募ではなく、8名程度地元からのご推薦で選ばせていただきましてご意見をお伺いする。そういう形にさせていただくことにいたします。これはお以前諮りしたことですけれども。

そうなりますと、開催がいつかということが前提となり、いつごろからご意見をいただくかということが問題になるかと思えます。

東井さんの方からは地震の話をしたい、想定東海地震を念頭に耐震について説明してほしいというご意思だったと思うんですけれども、市民参加懇談会は説明会ではない、市民によるご意見をお伺いすることが開催主旨であるので、立地地域の多くの方々からご意見をお聞きするという観点で、第1部から市民の方のご意見をお聞きする会にすべきというコアメンバーのご意見でした。これは合意いただいたと思います。

2)ですけれども、会場参加者からもご意見を伺いたいので、会場に参加されたから挙手をいただきご指名にてご意見をお伺いする、これが第2部、いつものとおりです。

その後、事務局の考え方とテーマの候補、プログラム案について「語るかい」の方からご意見がいろいろございました。

募集人員の方はいつも大体そうなんですけれども200名程度と申しておりますが、語るかいの方は500人ぐらい入れる会場があればそこにしたい、参加者希望で応募してきた方を断ることがないよう、最低300人は入れるようにということでございました。

それから、東井さんの方に、こちらの考えをまとめとしてお送りさせていただいたんですけれども、その後また東井さんの方からご意見をちょうだいいたしました。それはきょうの資料22-3号ですけれども、これについて、事務局の赤池さんの方から説明をお願いしたいと思います。

よろしく願いいたします。

赤池補佐 語るかいの東井さんからいただいた、これはメールでいただいたものをそのまま資料としております。

それから、資料22-2と22-3の関係でございますが、この22-2の方はやりとりをコンパクトにまとめたものでございます。それで、22-3の方は東井さんの方からの返答をそのまましたものでございます。

それでは、読ませていただきます。

木元座長 まとめたものをごらんになった上で、またお寄せいただいたということですね。

赤池補佐 そうです。

「浜岡原発を語るかい」（代表世話人東井様）からの返答内容。

7月12日返答内容。

3日の当会での反応・意見は、正直全面的に案とは相反するものであったので困惑し、さらに市内外の市民や周辺自治体関係者等にもご意見を聞きました。県にもご相談しました。マスコミ関係者にも聞きたいとは思っていますが、これはまだ実現していません。

以下皆さんの意見を世話人としてまとめました。（住民の中では相互に対立する意見はほとんどありませんでした。）

1.開催地について。

・静岡市と御前崎市では全く意味が違う。前者は消費地、後者は地元立地町。

- ・今回は、地元からの要請なので、地元開催をお願いしたい。
- ・テーマ「知りたい情報は届いていますか」は、地元向け。
- ・そのテーマで「ご意見を聴く」というのであれば地元で開催されなければ意味がない。
- ・静岡市での開催は、高速バスで往復3時間、バス代3,000円以上かかるので、とても地元の人が参加しやすくなるとは言えない。一般市民の参加はほとんどゼロだろう。
- ・地元で開催されても、市外からの参加は十分期待できる。周辺自治体の市民や関係者も参加したいと言っている。

## 2. 参加人数について。

- ・500人くらい入れる会場で。応募してきた人を断ることのないよう、最低300人は入れるように。(事前に参加申し込みをしなくて済む方がよいが。)

## 3. 開催時期。

- ・「福岡より後」はやむを得ないとして、いつごろを想定しているのか。できるだけ早くを希望。

## 4. 構成、プログラムについて。

- ・基本的に了解せざるを得ないのかと思う。
- ・ただ、想定東海地震については、住民の間でも現在想定されている姿がわかっていない。さまざまの受け取り方があり、共通認識の上に話を進める方がいいので、政府の(すなわち中央防災会議の)想定する東海地震について数分ほどでもいいので、プレゼンをお願いしたい。

- ・以上、開催地について、全員口をそろえて地元で、という強い希望でした。ぜひご理解ください。

万一どうしても御前崎ではやれない事情でもあるということでしたら、世話人として何とか代案を提起するようにしたいと考えています。

- ・次が人数の問題で、地元の間が参加しにくいという事情をご理解くださるなら、試みとして応募方法を含めて再考していただきたい。

- ・その他は、そこまで話が進まなかったという感じです。基本的には納得していただけたと受けとめています。

次に、ページをめくっていただきまして、次が8月1日にご返答いただいた内容でございます。

- ・第1部の説明に付記されている「地震学者によるパネルディスカッションをご希望」

については、既にそういう場ではないことは了解していただいています。

・その上で、共通認識のもと話し合わなければ、想定東海地震は巨大な象ですので、むだな議論になりかねないので、どこでもいい、原点の位置を明らかにしましょうと提案させていただきました。それが「数分のプレゼン」の提案趣旨です。

・原点として、+5でも、-3でも、どこに置いてもいいです。まあでも中央防災会議の想定を原点としていただければ、まず文句はないと思います。その上で「その想定は甘過ぎる」、「だったら浜岡原発は十分耐えられる」といった発言が意味を持つてくるのではありませんか。

・説明者は中央防災会議などの事務局の方でもよいでしょう。原発については何ら触れる必要はありません。どんな地震を想定しているのかと、簡単な被害想定で十分です。幾ら地震に焦点を当てないようにしたいと思っても、静岡で、原発といえばだれしも東海地震を連想するので、また地元としては安全問題が最優先課題ですから、主催側からそうしたプレゼンをなさることは何ら不自然ではありません。

・原子力委員会のごあいさつで、もしくは浜岡原発の抱える問題（ブルサーマルについても取り上げたいのではないかと察するのですが）として、発言者等自己紹介（コアメンバーの方々に静岡の紹介として？）など、何かうまい方法をお考えください。

以上でございます。

木元座長 きょうは東井さんがお見えですので、また前回のようにわからないところを聞かせていただきたいと思いますが、このペーパーは東井さんの方からきょうの資料として配ってほしいというご要望でしたか。

東井 事務局からいいですかということで、どうぞと。

木元座長 配っていただきましてありがとうございました。

ということで、そのままお書きになったものをこれはお配りさせていただいて、これをコアメンバーとしてどう考えるか、どう受けとめるかということでお話を進めたいと思うんですけども、2枚ありますが、7月12日にいただいた分は理解させていただいて、ただ今回は地元からの要請が原点にありますので、地元からというつまり御前崎ということですが、強いご意思であります。

それから、「知りたい情報は届いていますか」、これもテーマとしては地元向けでもあるので、地元御前崎でというご要望だと思います。ですから、これを受けまして、開催時期はこれから取り上げますけれども、開催地は御前崎の方が納得できるかなと。知りたい

情報は届いているかということでご意見を伺う。それから地震だけに特化することに関しては前回、前々回でコアメンバーで討議させていただいたように、それは市民参加懇談会の性格とはちょっと違ってくるとは思います。開催地としては御前崎ということではいかがでしょうか。

吉岡委員 ありがとうございます。

静岡というのも、例えば大地震が起きた場合には、それなりの大きな都市ですから、被害というのは想定されるわけで、静岡は静岡で真剣な検討に値する問題であるとは思いますが、御前崎とは基本的に違う。もし原発について、原発と地震というようなことを論ずるとすれば、基本的に種類が違う形で問題設定がなされるであろうと思っております。

それで、地理的に言うと静岡と御前崎というのは青森と六ヶ所ほどは離れていませんけれども、福岡と玄海ぐらいいは離れているということで、かなり受けとめ方が違うから、どちらでやるかによってかなり性格も違う会になるであろうと想定されますけれども、静岡からの提案じゃなくて、御前崎からの提案である以上、私はどちらにも興味ありますけれども、御前崎でやるというふうな提案が来ているなら、あえて静岡にすることもないのではないかと。そういうことです。

木元座長 では、御前崎でいいわけですね。

吉岡委員 はい。

木元座長 小川さん。

小川委員 開催地については御前崎でいいのではないかと私も思います。ただ、この「知りたい情報は届いていますか」というのは地元向けというのは、これは必ずしもそうではないと思います。「知りたい情報は届いていますか」というのは、すべての国民向けだと私は思っているんで、これが地元向けだと規定することはないのではないかと。ちょっと今後のことも考えて、誤解を解いておくというための発言です。

木元座長 多分東井さんに強いお気持ちがおありになったんだと思いますけれども、知りたい情報は届いていますかというのは何も原子力だけではなく、小川さんがおっしゃるようにすべてに言えることなのです。でもその中でサイトだから、地元だからという事情があり、特化していく方向に行くのは当然あるでしょうね。私はそのように受けとめさせていただいております。

では、御前崎ということで、日時その他は後に考えることにしてやりましょう。

それから、ちょっと恐縮ですけれども、東井さんの12日の返答の一番上の方の紙の構



成、プログラムについての4.ですけれども、2つ目のポツの想定東海地震のことをお書きになっていらっしゃるって、さまざまな受け取り方があるので、共通認識の上に話を進める方がいいので、「政府の(すなわち中央防災会議の)想定する東海地震について数分ほどでもいいので、プレゼンをお願いしたい」というご要望があります。

それから、次の2枚目の8月1日にいただいた分ですけれども、このところは、ずっと地震のことなんです。1ポツからいきますと、第1部の説明に付記されている地震学者によるパネルディスカッションのご希望については、既にそういう場ではないことは了解していただいていますとおっしゃってくださっていますが、その上で共通認識のもと、話し合わなければ想定東海地震は巨大な象ですので、むだな議論になりかねないので、どこでもいい、原点の位置を明らかにしましょうと提案していらっしゃる。それが「数分のプレゼン」の提案趣旨ですと、ちょっとわかりにくい部分があるので、もしよろしければ東井さん、どういうことなのか、共通認識のもとで話し合わなければというのは、地震について共通認識を持ちたいということでしょうか。だから、中央防災会議というある種の権威ある人に話してもらって、それを共通認識にしたいということでしょうか。

近藤委員長 それは文字どおり解釈すればいいのでは。そういう提案だと。新聞にも出る情報を紹介してくださいということだと思いますけれども。

木元座長 ちょっと確認です。

近藤委員長 紙に書いてあることは、確認する必要もないのでは。何を確認したいのかわかりませんが。

木元座長 原点の位置を明らかにしたい。今私は会の運営を考えているんですけれども、今、委員長がおっしゃったように、その場所で、一番最初にプレゼンで中央防災会議の方にしゃべってもらうのを原点の位置とすると、そういうことですか。

近藤委員長 中央防災会議の人がしゃべるかどうかは全然別の話であって、そこにあるようにだれがしゃべったっていい。

木元座長 ご要望だけはきちんと確認したい。

近藤委員長 だから、僕は余りご要望を聞くと……。

木元座長 聞くじゃなくて確かめて。

近藤委員長 ここでご要望を聞くというのはおかしいので、皆さんが議論することだと僕は思うんだけど。

木元座長 ご要望を確認して受けとめる。その後議論する。ごめんなさい。近藤先生は

頭いいからすぐわかっちゃうのよ。

中村委員 我々がどういう形でできるかということをもとに考えて、これだけすり合わせができてきているので、なるべくご期待にはこたえて差し上げたいと思うけれども、できることとできないことがあるので、その中でどうしてもある共通認識と、多分、情報の共有だと思っただけですけども、それがどうしても必要ということだったならば、その出し方を考えるという形で持っていけるんじゃないですか。

木元座長 ありがとうございます。

そういうことです、近藤先生。

小沢委員 原点の位置ってわからないよ。

木元座長 私もわからないの。

小沢委員 東海地震という言葉がある原点ということ。

木元座長 それはどうなんですか、原点の位置というのは。

東井 聞こえないんですけども。

木元座長 ここに座りますか。

近藤委員長 僕の理解を申し上げますと、この地域にはそういう地震が中央防災会議で想定されていますと、これについて被害想定がこういうのがありますと、これは出ているわけですよ。ホームページに出ているんです。それだけです。それを情報として共有しましょうという提案、それを原点にするかどうかは皆さんの問題であって、それを原点にしたくないという人もいるかもしれないけれども。

木元座長 だから、その提案された方の言う原点を確認するんです。

近藤委員長 いやいや、原点という言葉はあくまでもそういう思いでそういうことをおっしゃっていることは極めてよく理解できる、それを - 3 とする人も、 + 5 とする人もいるかもしれない。それはわからないんですけども、そういうものがあるという事実を共有するというご提案と、それが提案者の。

小沢委員 東井さんのことを何で近藤さんが代弁して説明しているの。

木元座長 そういうことですか東井さん、聞こえました。

東井 要するに、これでどうしても意見を募集するわけですよ、今から。そうすると、その発言者の中には地震のことを言う方が絶対多くいると思うんですよ、募集した中には。そのときに、意見の中には浜岡原発が東海地震に耐えられないから、どうこうしてとかというような話が出てきたときに、じゃ、耐えられる、耐えられないと言っているのは

どのくらいの規模を想定してそう言っているのかということが聞いている人が人によって受けとめ方が違おうと、そんなばかなことをとか、いや、もっとすごいとか、そういうふうになりかねないので、要するにここで言っている耐えるとか、耐えられないとか、心配だと言っている地震というのはどういうものなのだと。静岡で、国で言っている、国で答申している指針というのはどういうものかというのをちょっと話していただくと、そんなものじゃないよと思う人もそれを軸にして、それより大丈夫だとか、それよりもっと大きいのが来るだろうとか、そういうことを言うときのそれというのが決まるじゃないですか。それが全然ないと、それが話をしていた+5のつもりだったり、3だったり、ゼロだったり、-10だったり、いろいろ少し違ってくると。

木元座長 ありがとうございます。わかりました。

前々回も前回も申し上げたように、市民参加懇談会では想定東海地震の議論をやる場ではないんですね。それは小沢さんが前回もおっしゃったように、「語るかい」の方で勉強会としてやっていただければいいんじゃないか。私どもの方としては、あえて今お聞きして、確かめなかったのは、例えば地震の話が出たときでも、それは+5とか-3とかという論議ではないんです。そういう情報はどこから得て、そしてどういうふうなお考えをお持ちになったのか、そしてその情報は信じられるのか、信じられないのか、信じられないとすればなぜなのか。そうすると、どういうところから、どういう情報を、どんなふうにとったらいいのかということを論議したいわけですね。

ですから、特定した想定東海地震だけの耐えられる耐えられないという、耐震性の問題の議論ということには、市民参加懇談会としてはなじまないし、それは趣旨ではない。こういうことになっちゃうんですね。そこで、ちょっと確かめさせていただきたかったので、例えば今おっしゃったような原点の位置ということであれば、今まで出ている中央防災会議のデータその他いっぱいあります。ですから、会の開催をしなくても、そういうものをお出しの方がいいのかなという気にならざるを得ないんですけれども、地震をやるわけじゃないので、もしパネリストの方がそれをお持ちになるのであれば、それはご自由だと思っただけですけれども。それを会そのものの原点の位置として地震の話に特化して話すことはできない、その確認なんですよね。

近藤委員長 そういう議論を2人でやるんじゃなくて、この会でやっていただくことじゃないでしょうかと私は申し上げているわけで、これは彼らの言いたいことは全部この紙に書いてあるんだから、これをむしろデータとしてコアメンバーの方で十分ご議論してい

ただきたいということを私は申し上げたかったので、私は別に彼女のことを代弁したつもりは全然ないんです。

木元座長 はい、わかりました。吉岡さんからさっき言っているから、どうぞ。

吉岡委員 ありがとうございます。

知りたい情報は届いているのかが主題であり、地震のみを話すわけではなくて、地震を中心に話すわけでも、それもどうかよくわからないということです。これをどうやって扱ったらいいのか、私の考えを述べますと、別に知りたい情報が届いているのかという問題ですから、それについてももしご要望が多い場合には専門家を立てて簡単な説明をする。地震に限らずですけれども、要望が多い場合には、それは技術的。専門的な話を淡々とお話し願うという、そういう場があっても別に何の問題もないし、従来からも説明員というのは、いろいろな場合、私たちの会でも出てきているわけですから、パネリストで論争するという、そういうのではなくて、説明員扱いで何件かの事柄についてそういう説明がなされるということは、何も問題ないし、要望が強ければそれはいいんじゃないかと思います。

木元座長 ただ、なぜそういうことを申し上げているかということ、前回、前々回、それから市民参加懇談会で今、吉岡さんもおっしゃってくださいましたけれども、説明者を2回ほど呼び出したことがあります。青森のときと東電の不正記載のときです。それは「知りたい情報は届いていますか」をテーマに掲げましたから。東電の不正記載のとき、核燃料サイクルのときもそういうタイトルでした。そういうタイトルを掲げるのであれば開催はできるだろうとは思いますが、今のお話で原点の位置を決めたいというご要望があり、プレゼンをしたらどうかというお話も出ていますので、その辺いかがでしょうか。

そうすると、知りたい情報は届いているかの中で、テーマを地震情報にするなり、何なりにすればできることなのかどうか。

中村委員 説明者については両方あって、議論したときと議論しないときがあって、我々としては敦賀のときだったかな、ちょっとトラウマになっている部分があるんですね。説明者が全体を壊してしまったという経験があったので。

木元座長 あの場合は説明者ではなくて、会場からでしたよね、手を挙げて。あのときは説明者を用意していなかった。

中村委員 それで、若干説明者がいるということについて僕も抵抗はあるんですが、プレゼンは違うと思うんですね。我々がプレゼンする、あるいは座長がプレゼンするというのはちょっと違って、ただ必要があるかどうかわからないけれども、説明要員をキープし

ておくというのは過去にもあったし、あってもいいなと。東電さんの関係だって、あれだけ人が来ても発言する機会が全くなかった人もいるわけで、そのことはエクスキューズしておいて、ひょっとすると発言の機会がないかもしれませんけれども、こういう説明をしていただく可能性がありますのでということで、説明員を用意しておくということは可能ですね。

木元座長 敦賀のときは、核燃サイクルの方でしたけれども、三、四人、前から二、三番目にお座りになっていて、「はい」と手を挙げて、私は核燃サイクルの者ですと乗られて、やや説明調になった。

蟹瀬さんにやっていただいたときは、壇上にも東電の方に出ていただいたんですよ。

蟹瀬委員 演説をぶっていただきました。

木元座長 だから、あの場合は、話は絞られて、不正記載の事実を、情報を通してどうとらえるかということだったので、説明者の方は座っていただいたんですけども、今回の場合はどうでしょうね。

蟹瀬委員 だから、今、木元さんがおっしゃったように、サブタイトルみたいなのをつけて、原子力と震災みたいなことでくくるのなら、それは成り立つでしょうけれども、そうじゃないというなら、ちょっとフォーマットは変わってきますよね。

木元座長 そうなんですよ。

蟹瀬委員 そこをどのぐらい震災というのを位置づけるかということだと思っんですけどもね、この会議の中で。

小沢委員 でも、知りたい情報は届いていますかということ、この御前崎の人たちが知りたいのが地震だったら、それはそういうのがいっぱい出ちゃって、これはたまたまそれ以外、こういう語るかいというのがあって、事前にこういうのを持ってきているから、この中に地震が出ていて、地震だけになって大変だと騒いでいるだけで、もしこういうことを知らない、それは考えてみれば予定調和的に問題のない議論をしようとして今までやってきたのがまずいんだと思っんですけど。これがこういうのが出てこなければ、知らないでいって、地震のことばかりになっちゃう可能性だってあるわけでしょう。だから、これはこのままでいいんじゃないですか。だけど、地震のことだけでは終始しないとか、するとかというのは、当日の議論でしょう。何で今から、それでは地震の話になっちゃうんだということで議論してなきゃならないのか、私はさっぱりわからない。地震の話になっちゃったら、地震の話でコアメンバーが知っている限り、私はそれは終わりですだと思っますよとかと

いうだけのことでしょう。だから、数値的に何か挙げろといったって予知できないんだから。

木元座長 だから、説明者を呼んでも、いいとか、悪いとかだけに終わる。

小沢委員 だから、それもここでこうなっちゃうんじゃないか、ああなっちゃうんじゃないかってあれこれ心配してみてもしょうがないと思いますよ。

東井さんはあれですか、何か地震のことで大丈夫ですとか、何とか言わせてしまおうと、それで後になってだめだったじゃないかと言わせようと思っているわけじゃないでしょう。だって、だめだったじゃないかというのが起こっちゃったらもうだめなんだから。それは何でこんなに地震、地震なんですか。本心はこれを開く目的は、浜岡をめぐる地震で突っ込んでいこうと決めているんですか、そういうことじゃないんでしょう。

東井 地震の情報が届かないからというので、そして語ることもできない。こういう名前をつけたというか。

小沢委員 じゃ、大いに地震の情報がないということを書いていただいて、それを提供する方法を我々が考えればいいわけでしょう、到達する方法を。

木元座長 それは、前回もそういう方向が出ました。

小沢委員 いいじゃないですか、それで、それだけのことだから騒ぐことないから御前崎でやりましょう。

木元座長 それで、いただいたこのご提案はどうしますか。

小沢委員 自信を持って私は御前崎は行きます。

木元座長 私は東井さんと話し過ぎちゃったけれども、何かあります。

小沢委員 東井さん、行って率直に話せばいいわけでしょう。私たちだって地震のことを言われたらはっきり言ってわからないし、それは隣に住んでいるのは嫌だものね。

木元座長 そこでこういうご要望が来たからご紹介して、真意をお問い合わせしたんですけれども。

小沢委員 でも、どんな人を持っていっても説明できないと思いますよ、東井さん、予知ができないんだから。

木元座長 先ほどからの、原点の位置とかを決めてやるとか。

中村委員 いやいや、そういうレベルの話じゃないんですよ、ご希望なのは。防災会議で被害想定しているわけじゃないですか、その事実を確認するだけでいいということでしょう。

東井 その中に原発が入ってないんですよ。だから、みんな不安なんです。

小沢委員 だから、原発のことは原発で別にこちら側でやっているんだらうと思っているから、こちら側から出してくださいますよと言っているわけですよ。こちら側にそういうのがあるの。

木元座長 それは中部電力が全部持っていますよね。

小沢委員 じゃ、中部電力にお願いしましょう。

木元座長 それは出ているはずなのよ。

小沢委員 持っているんですか。

木元座長 そう。

小沢委員 じゃ、出ないなら出ないで、そういうのは委員会をそこでやろう。ここでずっとやっていても、二度会議をやるんじゃ私は嫌。

木元座長 確認しますね、ご要望をいただいています。これはきちっと一回受けとめてお返事しなきゃいけないので、コアメンバー会議としては8月1日のご返答の内容で今2つ目を確認させていただいたんですが、3つ目の原点としても同じようなことで、中央防災会議の想定を原点としていただければということなので、それは市民参加懇談会とは違う方向なのでという話になってきました。

それから、説明者、これは事務局の方でもいいというようなご提示ですけれども、これは説明者は特に置かない。

さっき中央防災会議の話が出ましたけれども、それぐらいのペーパーを用意しますか。

小川委員 説明者と今おっしゃったのは、壇上のプレゼンテーションの説明者ということですね。それはなしですね。それは私もそれでいいと思います。

木元座長 それは前の会議でも確認していますしね。

小川委員 そうそう、地震について。

ですから、敦賀方式で、あのときは出るか、出ないかわからないけれども、ちゃんといういろいろなことを想定して用意してくださいねと各社に来ていたわけで、その人たちが一応いたんですよ。その方式でよろしいんじゃないですか、中部電力さんに出るか、出ないかはわからないですけども。

木元座長 こういう話が出るということを……。

小川委員 当然予想されるわけですから。

木元座長 予想してお見えになるのは自由ですね、お申し込みいただければ。こちらか

からお頼みは別にしないけれども。

小沢委員 地震のこと。

木元座長 そう。

小沢委員 1人ぐらいは置いた方がいいんじゃない。

木元座長 お願いしておきますか。

小川委員 事前に……。

小沢委員 資料が出ているんだもの、出ているのにこの話はしませんと言っても……。

木元座長 ご要望があるし、ご発言も多分あるだろうということで……。

小沢委員 そういう嫌味なことをお互いにやらないように。

小川委員 そういつもりではないと思う、会場にはいていただくと。必ずご発言の機会があるときには、中部電力の対応内容というのは当然想定された公のものから来ているわけですから、説明の中に入ってくると思うんですね。それが東井さんのおっしゃる原点と設定できるのかなと私は思うんですけれども。

小沢委員 そんなの当日やる。

小川委員 当日になりますけれども。

木元座長 そうすると、こちらからお願いする形で、こういう話が出るのが想定されるので、ご説明できる方をお一人、あるいは2人ご出席いただけますかというご要望を中部電力にお出しすると。

小川委員 プログラム上には出さないということです。

木元座長 中央防災会議は。

小川委員 それは、私は必要ないのではないかと思います。

近藤委員長 ですから、今、方式としてはおっしゃるように、だから説明員は置かないということを決めますと、プレゼンはないと。その辺の話題に応じて議長か進行役がこれについてどうですかと触れる相手は会場に置きますと。それはどなたにしたらいいですかということで、それが中部電力だけでいいのか、はたまたほかの方を置いた方がいいかということは議論していただければいいので。

木元座長 今それをお問いかけている。

近藤委員長 だから、中央防災会議において決めているホームページで出ているようなことについて、中部電力が知らないはずはないので、それを振ればそれを答えられないはずはないと私は思いますけれども、それがエクスペルティーズとしてクリエイティビリテ



ィについて、疑わしいと思うなら別の人を入れたりもするということもあるかもしれない。それは皆さんがお決めになる。

木元座長 では、どうしますか。

近藤委員長 僕の理解は前回議事録で小沢さんの発言で、そこはいいじゃないかと、決まっていると思っていたんだけど、きょうまたゼロから議論されているから。

木元座長 再度、ご要望とご提案をいただいているし、市民懇としてはお返事をしなきゃならないということがあります。それで、あえて繰り返させていただきまして失礼いたしました。

中央防災会議の方、今、近藤先生からもお話がありましたけれども、どうしましょうか。

中村委員 そのこのところは、だから確認事項、中部電力に我々としてプレゼンをしてもらうわけじゃないけれども、必要に応じてご発言をお願いすることがあるので、中央防災会議による東海地震の被害想定を踏まえた中部電力としての浜岡原子力発電所を含めた防災に対する備え、考えを発言している人をできる人を用意してくださいとお願いするというのでいいんじゃないですか。

木元座長 はい、それでよろしいですか。

中村委員 ええ。

木元座長 そうさせていただきます。

中村委員 また、はっきり言って、いろいろなところから選ぶと、いろいろなところの人に発言させなきゃということが出てきちゃうので、それよりはすべてを踏まえて発言する役割をお願いしますよということを依頼すればいいんじゃないですか。

木元座長 では、そういうことで中部電力さんに打診させていただきます。

タイトルはそうすると、知りたい情報は届いているか、副題として地震をつけますか。

中村委員 それはつけないということでもう議論は終わっているでしょう。

木元座長 なしでいいですね。いつものとおりにさせていただきます、市民参加懇談会の姿勢は通していきますので、よろしく願いいたします。

それで、また東井さんの方からご意見が来るかもしれませんが、きょうの結論ではこういうことで決めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

開催時期ですけれども、そうなってくると10月か11月ということにならざるを得ないので、その日取りがちょっと決まりにくい。時間的余裕があればご意見を募集した上でご発言いただく方を決めるという作業があります。例えば11月に開催するとなると10

月前には募集に入らなければいけませんので、とにかく福岡を固めてしまった後でこれを詰めさせていただきます。

小沢委員 11月ぐらいにした方がいいよ、想定はね。

木元座長 想定はね。

中村委員 ちょっと最初に言うべきだったんですけども、はっきり言って事務局のレスポンスが悪過ぎますよね。それは人事異動があったということはあれですけども、前回の議事録を見てもらえばわかるように、福岡をやって、その1カ月後ぐらいには静岡、御前崎でやりましょうよ、これだけのご要望があったんだからという話になっていたはずなんですよね。立ち上げとしては、あの時点では8月の下旬にでも福岡をやって、その1カ月後に静岡をやるというのは物理的に不可能じゃないという話までしているわけじゃないですか。それで、今になって11月という想定は甘過ぎますよ。11月と想定したら、また年内できなくなりますよ。

可及的速やかに行動を起こすとして、物理的に必要な日数を逆算してやったら、10月だってできないはずはないですよ。今立ち上げて、9月の末だって不可能なはずはないので、今までやってきたじゃないですか。それがちょっとこのレスポンスの悪さは担当した門馬さんはかわいそうだけれども、あんなに日程調整をやるというのはおかしいじゃないかというのがはっきり言ってコアメンバーはみんな思っていると思いますよ。

木元座長 近藤先生がいらっしゃるけれども、私から、おわびしなきゃいけないと思っています。

私は本当に板挟み状態になっているのは事実で、それがなぜかということ、原子力政策の大綱を作成するために、事務局が縛られました。私も縛られました。ですから、どんどん市民懇スケジュールが遅れ、先送りされてしまう。政策大綱の作成が第一ですから、福岡の場合も二転三転しています。この日に押さえるところに策定会議が予備で入るかもしれないから、これを移動してくれと。事務局とまた勘案するとまた変更になる。皆様のご都合をまた伺う。そういうことの繰り返しになりました。本当に心からおわびいたします。私も今初めて言いますけれども、物すごく辛かったです。悔しかったです。そういうことがありますけれども、私も原子力委員の一員ですし、私も策定会議を何よりも優先させることも理解してますし、この大綱はどうしても頑張らなきゃいけない、力を出さなければと考えていることもありまして、市民懇がなかなか思うようにいなくて、本当にご迷惑をかけたことを心からおわびいたします。

その上で、あえて言わせていただくと、市民参加懇談会が今後私がいなくなってどうなるかわかりませんが、頑張って立ち上げて、世間からも認めていただき、それなりに評価されていると思いたいです。皆様方のお力をかりてここまで来たことは有難く続けてほしいと思っております。今後どういう形になるかわかりませんが、原子力委員会に市民参加懇談会があって、市民からの意見をそこにぶつけることができるという形だけは続けてほしいと思います。そして、寄せられたご意見はきちんと受けとめます。受けとめた上で、それを原子力政策策定のプロセスに反映することができれば嬉しいことです。力としてはちょっとかもしれません。でも、世間でそれを認めてくださっていることは大きな力になっています。今後ともご迷惑をかけるかもしれませんが、よろしくお願いいたします。

事務局も異動がありますし、私も常勤ではなくいろいろと不手際が今後もあると思えます。でも、チームワークをがっちりと組んで一生懸命これからもやりますので、お力をいただきたいと思えます。

ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

何だか愚痴っぽく、湿っぽくなっちゃって嫌ですね、ごめんなさい。ご迷惑かけました。

松田委員 開催時期はやはり11月なんですか。

木元座長 多分、今のスケジュールからいくと、これから原子力の政策大綱（案）ができて、パブリックコメントにかけ、意見の集約をし、その間ご意見を聴く会で地方を回ります。お盆も15日は休みますけれども、16日から動かなきゃならない。青森、福井、佐賀に行く。そうすると、事務局もそれにかかわらなきゃならない。物理的に、全員動きますし、どうしても11月に送られる方向です。その時期に、策定会議を開いて今度の大綱を確定しなきゃならないという作業がありますので、どうしてもそこと重なっています。大変申しわけないなと思えますが、今の予定だと11月です。早めたい思いですがそれがいつになるか。

小川委員 その前にもう一度コアメンバー会議があるんですか。

木元座長 開かせていただきたいと思えます。またおわびになるかもしれませんが。

ただ、福岡だけはここまでやっと来たという感じです。きょうも確定として日にちも決めさせていただきました。これは委員会の事務局もここを動かさないでくださいとお願いしましたので、確定として実行させていただきます。よろしくお願いいたします。

事務局から何かありますか。

中村委員 感想ですけれども、11月開催として、ご意見を集められるのはいつですか、ご意見募集開始はいつできるんですか。

木元座長 10月頭には私はしたいと思っているんですけれども、どうでしょう。

小沢委員 きょうここに在る市民には聞いておいたら。

小川委員 一般の市民ですよ。

小沢委員 ごめんね。

中村委員 また、僕も愚痴を言うみたいだけれども、福岡とパラレルで進行しようよという話だったじゃないですか、6月に。

木元座長 そうでした。

中村委員 それが今もう8月に入っちゃっているんですよ。

戸谷参事官 事務方の責任者の参事官の戸谷でございますが、いろいろ不手際の点については申しわけないと思っております。

それで、ただこちらの御前崎の方の話もきょうのご議論の中で、11月の時期はいつかは別にしても、開催については必ずやるということでこの場でご議論いただくということであれば、実際のご意見を聞く手続については、これは早期にやるというのは可能だというふうに思いますので、ちょっと具体的な事務手続は最初から詰めさせていただきたいと思います。

木元座長 私も心配ですけれども、今、策定会議というか、大綱の方でもご意見を募集してますよね。

戸谷参事官 今してますね。

木元座長 してますよね。

それがあって、事務局は大丈夫ですか。

戸谷参事官 大綱の方のご意見が8月28日までということになっておりますけれども。

木元座長 それが終わったあたりから、こちらにかかれますか。

戸谷参事官 はい。

ただ、要すれば11月ということで開催になれば、実際のご意見をいただいた意見についての調整というのはまだ時間がありますので、ご意見をいただく期間を早目にとっておくということ自体なら、それ自体は可能だというふうに思いますけれども。

木元座長 私としては10月の頭にはそれが決まっていたいんですね。だから、それはできますね。

近藤委員長 10月の頭に決まっていなかったら、話になりませんので。

木元座長 最低その時期です。

近藤委員長 10月の頭から意見募集を始めていなきゃならないでしょう。

小川委員 意見が集まってないといけないんでしょう。意見が集まってから、それから8人を選定するのがまた大変な作業だと思うんですね。

木元座長 かなり時間もかかるんです。

小川委員 ですよ。

木元座長 でも、1カ月あればできると思います。

小川委員 1カ月前に意見が出てないといけないですよ。

木元座長 開催日前に1カ月あれば、募集して選考するまで大体できますね。

戸谷参事官 だから、そういう手続から言うと、恐らく9月初めぐらいからご意見は募集をし始めなければ。

中村委員 それくらいしないとだめですよ。

小川委員 そうだと思います。

戸谷参事官 だろうというふうに思いますけれども。

木元座長 では、こちらの事務局の市民懇以外のスケジュールとうまくバランスをとりながら、きちっとやっていきますので。

いろいろご心配をおかけしましたが、よろしく願いいたします。

そういうことで、次回のコアメンバー会議の日時ですが、またファクスなどをお送りして恐縮ですけれども、こちら側のスケジュールと勘案しながら開催させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。大体9月の中ごろぐらいにはこちらも固まるし、コアメンバー会議を開催したいと考えますので、9月のスケジュールをまた伺うことになるかもしれませんが、それでよろしいでしょうか。

赤池補佐 事務方の方からまた日程調整のご連絡をさせていただきます。

また、福岡の件につきましては、策定会議とのスケジュールの関係もございまして、再度日程調整をさせていただきますして申しわけございませんでした。今後、真剣に対応してまいりますので、またよろしく願いいたします。

木元座長 それから、いつものようにご確認いただいた上で原子力委員会のホームページに掲載する、これはまた後で事務方にやっていただくようになりますので。

赤池補佐 わかりました。よろしく願いいたします。

木元座長 よろしくお願いいたします。

東井 会場と人数を。

木元座長 それを確認しましょうか。

前回もお話し合いをしていますますが、まったくどくなりますけれども、まだ人数は多い方がいい、少ない方がいいというご議論がありました。皆様方のご意見を伺った中では、経験上、200名から多くても300名以内ということで開催させていただこうと思っていますので、よろしくお願いいたします。

中村委員 ですから、会場が500人の会場でもそれは別に構わないですよ。地元の皆さんが500人の会場でやりたいということだったら、何人来ても別にそれはいいんじゃないですか。ただ、我々が今までやってきて、機能しているのは300ぐらいが限度でしたよということをお伝えして、会場と云ってそんなに御前崎にいろいろなバリエーションがあるとは思えないので、500人のところと150人のところになるかもしれないので、そうなったときに皆さんが500人の方でやってほしいということだったら、別に500人のところでやっても。

木元座長 その辺もう一回、前回も確認させていただきましたけれども、前回200から300人で固まったように思っていました。しかし、また東井さんの方から500人というようなご意見がありましたので、また一回受けとめます。いかがでしょうか。500人でしますか。

小川委員 人数は200名から300名以内が私の意見なんですけれども、ただちょっと気になっているのは、東井さんの方からのご希望で、事前の申し込みをしないで、ふつと来れる雰囲気がいいということをおっしゃっていたんですよね。そのまだやったことがない方式を採用するかどうかというのは、ちょっと私たちは考えなきゃいけないなと。

小沢委員 席が空いてたら入れればいいだけじゃない。

木元座長 今、事前申し込みをさせていただいております。

なぜならば、このごろは、テロ対策ということで、ちゃんと事前申し込みをなされた方がお入りになるということを確認するということになっていきますので、それは守りたいと思っています。

小川委員 わかりました。

小沢委員 じゃ、東井さんの推薦状を渡しておくとか。

中村委員 だから、これは例のあることだけれども、基本的に事前受付をさせていただ

かないと諸般困る事情はあるわけですが、ただ当日来れないと思ったのが来れるようになったのでという方をお断りする理由はないので、基本的に事前申し込みだけでも、当日券ありという姿勢でいいんじゃないかと僕は思いますけどね。

木元座長 それは事務方、内閣府ともう少し相談させていただきます。

それでよろしいですね。

赤池補佐 もっとも会場等との関係もございますので、また相談させていただければと思います。

木元座長 それでは、きょうも時間がちょっと押ししましたけれども、時間になりましたので、終わらせていただきますが、本日もいろいろありがとうございました。至りませんで失礼いたしました。よろしく願いいたします。

皆様を頼りにしています。ありがとうございました。

では、中村さん、那須からすっ飛んでのご参加お願いいたします。

中村委員 失礼な発言がありましたのはおわびいたします。

木元座長 こちらこそ、お忙しいところありがとうございました。

午後0時06分閉会